

書く力記事使いアップ



新聞の中から「おすすめ記事」を紹介する参加者
30日、小浜市の県嶺南教育事務所

小浜で研修 小中4校が実践報告



県内の小中学校教員を対象にした「新聞を活用した教育研修会」が30日、小浜市の県嶺南教育事務所で開催された。全国学力テストで福井県の児童生徒の課題に挙げられている「書く力」「伝える力」を磨く上で、NIE(教育に新聞を活用の有効性を学んだ。県教委が主催し、今年で8回目。今回は嶺南を中心に教員ら約70人が参加し、NIE実践指定校3校、昨年度までの実践指定校1校の担当教員が報告した。

若狭町瓜生小の大峽美紀教諭は、3、4年生が朝学習や

宿題で取り組んでいる記事の書写活動を紹介。主にふりがな付きの記事を選び、書き写した上で自身の意見や感想を書いている。「毎週続けることで書くスピードが速くなった。文章の流れを押さえ、情報を正しく読み取る力が伸びている」と話した。

あわら市菅原中は、気になる記事の要約や感想を帰りの会で紹介する「1分間スピーチ」や、グループ内で回覧する「交換スクラップブック」を実施。齊藤幹郎教諭は、新聞に書かれていることを根拠に自分の言葉で自信を持って伝えようとすると態度が育っていると効果を説明した。

分科会では各実践校が取り組む「おすすめ記事紹介」や「まわしよみ新聞」を実際に体験。小浜市雲浜小の小林知代教諭(22)は「NIEの具体的活動を聞けて参考になった。コミュニケーション力を高める上で有効だと感じた」と収穫を得た様子だった。(宇野和宏)